

新潟県は急峻な地形と広大な県土を有しており、県が管理する道路の延長は全国第3位と長く、橋梁やトンネルなどの道路施設も数多くあります。

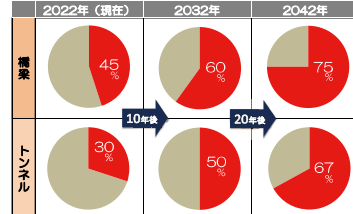
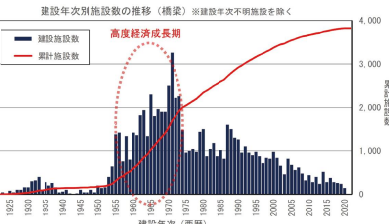
こうした道路施設は、その多くが昭和40年前後の高度経済成長期に建設されており、今後急速に高齢化が進んでいきます。

そのため、新潟県では定期的な点検と計画的な補修を行い、安全で安心して利用できる道路施設の管理を進めています。

県が管理している道路施設は、橋梁やトンネルといった大規模な構造物から、標識や照明などの附属施設、雪国特有の雪崩予防柵やスノーシェッド、消雪パイプなど多岐にわたり、施設数も膨大です。

こうした施設は建設されてから５０年以上経過しているものも多く、最近では老朽化による損傷が顕著になってきています。今後もその数は増加し、私たちが安心して道路を通行するために必要な補修費は年々増加していくことが予想されます。

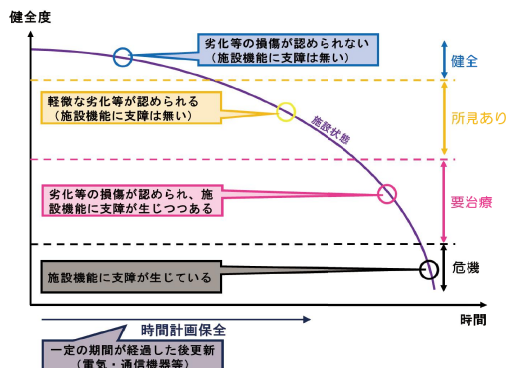
施設名		施設数	施設名		施設数
橋梁		約4,000橋	消融雪施設 (滑雪ハイパなど)		約2,900箇所
トンネル		約210箇所	道路路断施設 (滑断歩道境など)		約100箇所
シェッド・ シェルター		約400箇所	道路附属施設 (大空車内降機、橋脚)		約14,000基
舗装		約5,200km	防災防雪施設 (防雪壁、 雪崩予防柵など)		約160km



県では、道路ネットワークの安全性や信頼性を確保し、より効率的で効果的な維持管理を進めるため、「道路施設維持管理計画」を策定しています。

これは、定期的な点検などにより道路施設の状態を客観的に把握・評価し、限られた予算の中で施設の特性や重要度に応じた維持管理を行い、補修に係る費用や社会的影響をできる限り少なくしようという取組です。

人に例えると、定期的に健康診断を受診し、カルテを作って病気を早期に発見し、適切な時期に治療する、あるいは病気の原因となりそうな生活習慣の改善を図るといった方法になります。



定期的に点検を行い、施設の状態を継続して記録します。施設の劣化傾向を経年でみることができ、将来的には施設の劣化状況を予測できます。

点検データを元に、施設が設置されている環境による劣化要因を把握します。状況によっては簡易的な対処により劣化の進行を抑えることができます。たとえば海岸に近い橋梁は、洗浄することで錆の原因となる塩を除去し、損傷を防ぐことができます。

施設の損傷は、補修が遅れると重大な事故につながる場合があります。定期的に点検を実施することで、損傷を早い段階で発見し対処することができます。

損傷を防ぐ、あるいは早期に発見することができれば、補修は小規模なものになり、補修にかかる費用や期間をおさえることができます。

点検と診断結果を踏まえたうえで、損傷が著しく抜本的な対策が必要で、道路ネットワーク上の必要性が高い道路施設を優先的に更新を行います。



「道路施設維持管理計画」は平成26年度から運用を開始しました（橋梁については「橋梁長寿命化修繕計画」として平成22年度から運用を開始）。この計画により、道路の利用状況や施設の特性などを総合的に考慮しながら補修の優先順位を定め、計画的な維持管理を進めています。

